

2016年度（平成28年度）自己評価

本校は、学校教育法および同施行規則に則り学校評価制度を制定し、文部科学省が定める「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って「学校評価」を実施しております。「学校評価」を実施するに当たり、最初のステップとして基礎的な資料を得るために毎年2月に生徒及び保護者へのアンケート調査を行っています。アンケート結果を踏まえて自己評価を実施しています。自己評価につきましては、学校評価委員会で議論し、教育活動の一層の向上につなげるよう努力しております。

前年度[2015年4月～2016年3月]の学校運営・教育活動等について教職員による自己評価を下記に公表致します。

関西外語専門学校 国際高等課程
学校長 花畑 好一

1. 本校の教育目標、教育方針

「生きた英語力」を身につけて国際舞台で活躍できる「真の国際人」を育成することが本校の教育目標です。このためには、グローバル化社会の中で、幅広い教養と自分の考えをもって主体的に生きることができるよう教育を施しています。なお、この教育方針の背後には、生徒を1人の人間として大切に育むという、法人全体の教育理念「血の通った教育の場」が脈々と流れています。

具体的な教育方針は次の通りです。

- 1) 「生きた英語力」を研ぐため、授業の中でできるだけ多く英語を使用する。
- 2) 国際力を研ぎグローバル社会に通用するよう育むため、日本人教員に加え、諸外国の教員による授業を実施することで、国際理解を深め、多様な考え方や価値観に触れさせて、多様性を受容する広くて柔軟な心を育む。
- 3) 少人数授業を大切にし、ディスカッションやプレゼンテーションなどの参加型教育（アクティブ・ラーニング）を授業に取り入れ、自ら学ぶ姿勢、自分で考える姿勢を育成する。
- 4) 将来進路に備える基本的な学力・教養教育を大切にする。
- 5) 個性と自由を尊重すると同時に、グループ・集団で活動できるよう規律、協調、コミュニケーションを大切にし、互いに認め合い協力する姿勢を涵養する。

2. 2015年度（平成27年度）の重点的な取組事項

1) 生徒数増への対応・少人数教育の堅持

新入生46名を迎えて生徒数が150名近くとなり、昨年度に比べ20名程度増加した。1クラスの生徒数20名程度の少人数教育を堅持し、全学年で7クラス（HR）体制で運営した。

2) 英語レベルについて6レベル展開を維持、レベルのクラス数を調整

英語レベルについては、昨年度に引き続き6レベル展開で授業を行った。1クラス15名程度の生徒数を維持し、生徒の英語力に合ったクラスで授業を受けることができるよう、計9クラスで運営した。

3) 学年間交流・生徒会活動の促進

本校の伝統であるアットホームな校風及び学年間交流が生徒数増により損なわれないよう、生徒会活動を促進した。一例として、ハロウィーン・フェスティバルを生徒会が主体的に活動できるように指導した。

4) 模擬国連への取り組み

英語・国際教育を推進するため、引き続き英語で国際模擬国連大会に積極的に取り組んだ。生徒数増のため6月実施の関西高校模擬国連大会には3年生の選抜メンバーによる参加となったが、7月には本校主催で8校から高校生を招待して模擬国連大阪を初めて実施し、成功させることができた。なお、模擬国連大阪は本校3年生が全員参加し、本校生徒が議長・秘書・ブロックリーダーを務め会議をリード・運営した。

5) 国際交流・研修旅行

年度計画に従い韓国研修旅行を企画し、実施に向け専門の講師による特別授業実施など準備を進めていたが、中東呼吸器症候群（MERS）感染拡大のため中止せざるを得なかった。代替の研修旅行として東京で実施した。ホームステイについては、教育効果を高めるため1年次から2年次実施に変更したため、2015年度はホームステイを実施しない年度となった。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標など

	評価項目	評価
教育理念 目標など	教育理念が定められているか	4
	教育目標が明確にされているか	4
	教育目標は社会のニーズに適しているか	4
	教育目標や方針は生徒・保護者・社会に周知されているか	4
	教育方針は教育目標を実現する適切なものとなっているか	4
	社会のニーズを踏まえた将来構想が描けているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

国際化の必要性が叫ばれて久しいが、21世紀になって日本社会は政治的にも経済的にもグローバル化の波を現実にも浴びるようになった。世界全体のグローバル化が進む中で、日本の人口減少が続けば、国際化の影響が更に大きくなると思われる。

国際共通語としての英語教育の必要性が増しているにもかかわらず、一般的には、高校の英語教育が「大学受験英語」から脱却できていない現状が続いていると思われる。本校は専修学校高等課程という強みを活かして、カリキュラムを柔軟に編成

し、思い切った「生きた英語」教育、国際教育を実施している。本校の教育方針は、時代の先端を行くものとして評価できると考えている。

課題としては、学内のグローバル化がある。教職員は、日本人教員だけでなく、諸外国の教員が教育活動に従事しているという点でグローバル化・多国籍化が進んでいる。一方、生徒については、外国籍の生徒が一部にとどまり、帰国生は一般の高校に比べると多く学んではいるが、生徒の多くが日本人となっている。この現状を改善するため、英語が得意で日本語は不十分な生徒用のコース（仮称：日本語指導コース）開設が課題となっている。

(2) 学校運営

	評 価 項 目	評価
学校運営	教育目標に沿った運営方針が策定されているか	4
	事業計画・中期計画に沿った運営が実施されているか	4
	適正な教育活動を実施するため、職員会議は定期的実施されているか、また、有効に機能しているか	4
	人事・財務などの意志決定組織は整備されているか	4
	地域社会等へのコンプライアンス体制が整備されているか	4
	教育活動に関する情報公開は適切になされているか	4
	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

日本社会のグローバル化の進行、「生きた英語」の必要性に対応する形で、運営方針・事業計画・中期計画は教育目標に沿って策定していると評価できる。

職員会議は原則、週1回実施しており、教職員が学校運営や教育活動に円滑に携わることができるように情報の共有化を図り、諸事項を調整の上、意思決定している。

諸規程については法人全体に関わる規定は法人本部及び総務部が管轄管理し、本校教育にかかわる規程については本校で案を策定し、理事長等の上部機関の承認を経て決定されている。規程策定においても日常の学校運営においてもコンプライアンスには常に留意している。

情報公開については、ホームページ、学校案内・募集要項などの印刷物において適宜行っている。

なお、生徒増・クラス数増に対応する情報システム化、事務の効率化は順次進めている。iPad 端末による出席管理システムは2015年度当初より導入し、生徒数・クラス数増に対応した。導入初年度であり、システムの不具合が発生しており、随時対応した。

(3) 教育活動

	評 価 項 目	評価
教育活動	教育目標に沿ってカリキュラムが編成されているか	4
	専修学校設置基準や教育目標に沿った授業時数や学習時間が確保されているか	4
	カリキュラムは体系的に編成されているか	4
	カリキュラムは時代の変化や現実社会の必要に対応しているか	4
	授業計画及び内容は、現実社会との関連したものとなっているか	4

	少人数授業は堅持されているか	4
	授業の多くは、参加型授業（アクティブ・ラーニング）となっているか	4
	「生きた英語」教育は施されているか	4
	国際教育は施されているか	4
	模擬国連の指導は実施されているか	4
	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
	海外研修・ホームステイなどの国際交流プログラムは計画・実施されているか	3
	情報教育は実施されているか	3
	衛生・保健教育は実施されているか	2

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

カリキュラム編成は、本校教育の最重要事項のひとつとして、検討・改善を重ねている。「生きた英語」教育、国際教育は、各教科の基本事項を押さえつつ、現実社会との関連を強く意識して授業を実施している。

授業方法も、教員が一方向的に知識を教える従来の高校における教授法（講義型授業）でなく、生徒が考え発信する授業、即ちディスカッション・プレゼンテーションを取り入れた少人数参加型授業（アクティブ・ラーニング）を実施しており、生徒アンケートでも7割を超える生徒が「授業が楽しい。」「授業のおかげで、この社会やいろんなことに関心を抱くようになった。」と答えている。また、8割を超える生徒が「授業は自分にとって有意義で、多くのことを学んでいる。」「世界のことや国際的なことをこの1年でたくさん学んだ。」と答えている。

模擬国連においても、生徒たちの活躍度は毎年向上しており、教員の指導と生徒の取り組みの結果であると評価している。なお、関西高校模擬国連大会の参加生徒数が増大した結果、人数制限が課されるようになった。1年半に亘る準備期間を経て、2015年度より本校主催の模擬国連大会（模擬国連大阪）を立ち上げた。2015年度は計9校より128名の高校生が参加し、「子どもの権利保障」について議論した。

9月下旬に予定していた韓国研修旅行が中東呼吸器症候群（MERS）感染拡大に寄り中止となった。世界を見回すと隣国との関係が全方面で友好的である国が必ずしも多いわけではない。日本と韓国との関係も国際関係や地域情勢の影響で変化することがある。しかし、実際に訪れることで偏見が正されることをしばしば経験する。この意味でも国際交流の重要な行事として諸準備を重ねてきただけに急きょ中止せざるを得なかったことは残念である。代替の研修旅行として東京研修を実施した。

なお、情報教育は入学時に集中授業形式で実施し、保健・衛生教育については、1年生を対象に専門の先生を外部より招いて実施したが、外部講師による教育となっており、授業スケジュールとの関連で特定の学年のみの実施となったことが反省事項であると考えている。

(4) 生徒指導・進路指導

	評価項目	評価
生徒指導	基本的な生活習慣の確立のための取組が行われているか	4
進路指導	基本的な学習姿勢の確立のための取組が行われているか	4
	生徒・保護者からの相談体制は整備されているか	4

	いじめ防止対策が施されているか	4
	学校の秩序を維持するための取組が行われているか	4
	進路説明会や進路ための情報提供は行われているか	3
	大学受験模試は実施されているか	4
	進路のための生徒面談は行われているか	4
	進路のための三者面談は行われているか	4
	受験対策指導は行われているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

全日制による1日7時間授業（9:00～16:00）を実施しており、一定量の宿題が常に課され、予習復習を基本とする教育を施しており、概してほとんどの生徒が基本的な生活習慣・学習習慣を確立していると評価できる。但し、思春期の特徴でもあるが、中にはサポートや指導を必要とする生徒もおり、クラス担任を中心に対応している。状況により保護者の協力を得ながら臨床心理士によるカウンセリングも実施している。なお、個別ケースに幅広く対応できるよう教職員も研鑽を積む必要があり、経験を深めると同時に研修の充実が待たれる。いじめ防止対策については少人数クラスの特性を活かし教職員が生徒の様子に目を配り、早期発見・早期対策に努めている。

進路指導においては、少人数教育の特徴を活かして、生徒個人の方向性に対応するため、生徒面談、三者面談など1人当たりの生徒に相当の時間をかけて指導しており評価できる。情報提供においては、毎年、大学の教職員を招いて分野別説明会を実施し、ホームルーム等を利用して将来進路について考える取り組みを行っている。しかし、アンケート調査によると進路に関する情報が十分でないという回答の割合が比較的高い学年もあり、改善の必要性を感じている。なお、春休みや夏休みには大学・短大等のオープンキャンパスに積極的に参加するよう指導している。また、天王寺という地の利を活かし、授業終了後に近隣施設で実施される進学イベント参加も促している。大学・専門学校などに赴いて自分の目で実際の校舎やキャンパスを確認することは極めて重要であり、更に指導を強化していきたい。

(5) 特別活動等

	評価項目	評価
特別活動等	新入生歓迎プログラムがあるか	4
	生徒交流活動が実施されているか	4
	伝統文化活動は実施されているか	4
	スポーツデーなどの課外活動は実施されているか	4
	防災教育・訓練は実施されているか	4
	学外での国際交流は実施されているか	4
	生徒会は機能しているか	4
	卒業生を祝福するイベントは実施されているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

アットホームな校風を維持し、学年を超えた生徒間交流を促進する努力は課外活動を中心に行っている。新入生歓迎プログラムとしては、入学式後に新入生歓迎会を実施した。また、学年を超えた交流のために5月1日に生徒会の企画・運営により

舞洲アリーナで交流イベントおよびスポーツデーを実施した。

国際人とは、世界のことを知るばかりでなく、自国（日本）を知り「自国（日本）を語れる人」である。このため、伝統文化活動は毎年実施し、日本の伝統文化を体験させている。2015年度は6月11日に国立文楽劇場で文楽鑑賞を実施した。また、生徒間交流、協調・協力マインドや主体性及び活動力を育むため、10月末には生徒会が主催し阿倍野区民センター小ホールでハロウィーン・パーティーを実施した。このイベントは生徒たちが自ら積極的に企画・実行した。生徒会役員が中心になって全校生徒を巻き込みながら主体的に活動したことを評価している。

なお、一部の生徒については大阪グローバル塾による短期留学で活躍し国際力を育むことができたことは評価している。多くの高校生の中で本校生徒がリーダーシップを発揮していると大阪グローバル塾より評価が届いていることを申し添えたい。

(6) 学修成果

	評 価 項 目	評価
学修成果	英検の合格状況はどうか	4
	TOEIC スコアはどうか	4
	漢検の合格状況はどうか	3
	英語偏差値は伸びているか	4
	大学等への進学状況は希望に合致しているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

過去6年間の卒業生の実績詳細は学校案内に記載している。英検では89%の卒業生が2級・準1級に合格している。2015年度単年度の実績としては、1級に1名（1年生）、準1級に10名（3年3名、2年6名、1年1名）、2級には31名（3年4名、2年18名、1年9名）、準2級には30名（2年生8名、1年生22名）が合格した。漢検では、帰国生も多いため生徒の希望する級を受けることができるよう配慮している。2級に3名、準2級に5名、3級に20名合格し、下位級にも8名合格した。

TOEICでは卒業時に51%が600点以上のスコア、700点以上は33%となっており、高校生としては非常に優れた成績を修めていると評価している。英検で2級に合格してもTOEICでは400点台にとどまっている生徒もおり、TOEICスコアが伸びるよう更に努力していきたい。なお、進路についてはほぼすべての生徒が希望進路を実現できた。

(7) 生徒支援・学費・奨学金

	評 価 項 目	評価
生徒支援	就学支援金の紹介や受給手続きはできているか	4
	大阪府授業料支援補助金の紹介や受給手続きはできているか	4
	大阪府育英会の紹介や受給手続きはできているか	4
	日本学生支援機構・事前奨学金の紹介や受給手続きはできているか	4
	その他の奨学金等の紹介や受給支援はできているか	4
	保護者との連携はできているか	4
	担任教員等による生徒支援はできているか	4
	臨床心理士による生徒支援はできているか	4

	卒業生への支援体制はあるか	3
--	---------------	---

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

就学支援金、大阪府授業料支援補助金の案内説明はオリエンテーション段階より説明し、受給手続きについても適格に実施していると評価している。なお、所得など条件により受給金額が異なる複雑な制度であるため、プロジェクターを使って視覚でもわかるように説明しており、保護者からの問い合わせにも大阪府に相談しながら的確に対応している。保護者との連携についてはPTSA総会（年4回実施）を実施し、担任教員を囲んでの食事会や授業参観、分野別進路説明会など教育活動を保護者に理解していただける機会を設けている。また、必要に応じて担任教員より保護者に連絡し、保護者の協力を得つつ指導できるよう努めている。高校生活を支援するため臨床心理士による面談を全校生徒対象に実施した。なお、卒業生支援については、大学編入時など受験支援は行っている。校友会・同窓会組織の立ち上げが課題として残っているものの、年度末には同窓会を実施し50名近い卒業生が参加した。

(8) 教育環境

	評 価 項 目	評価
教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
	防犯・防災に対する体制は整備されているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

施設・設備について、2014年後期より別館（全面的に耐震補強及び内装外装を施し新築に近い仕様の校舎）を使用しており、少人数授業に適した教室数を十分確保でき、学年単位で授業や諸活動ができる大教室も確保している。各階に防犯カメラを設置しており、校舎入口に受付を設けて外部侵入を防いでいる。守衛が校舎を巡回することで生徒の安全管理に努めている。安易なネット使用による危険に備えるため、夏休み前には阿倍野警察の協力を得て青少年担当警官による防犯講習を実施した。万が一の場合に備えて避難訓練・防災訓練は毎年実施しているが、2015年度は阿倍野消防署と連携し避難訓練を実施した。

(9) 生徒の受入れ募集

	評 価 項 目	評価
生徒受入 募 集	中学校等接続する機関に対する情報提供等の取組は行われているか	3
	ホームページでの情報提供は行われているか	4
	学校案内・募集要項等の印刷物での情報提供は行われているか	4
	オープンキャンパスでの情報提供は行われているか	4
	生徒募集活動において、資格取得・進学状況等の情報は正確に伝えられているか	4
	生徒納付金は妥当なものとなっているか	4
	オリエンテーションは実施されているか	4
	入学前学習は実施されているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

大阪府及び近隣府県の中学校への情報提供については、学校案内・募集要項・進路（教育）実績レポート・入試合格状況など送付している。また、受験する可能性のある生徒については、在籍中学校を訪問して教育方針や指導方針、教育の概要、入試などについて伝えている。但し、教職員数の制約上、網羅する形で中学校を訪問しての情報提供はできていない。

なお、一般的な情報提供としてはホームページ充実による情報提供に取り組んでいる。帰国生受け入れ中高大を定期的取材している外部帰国生団体より、本校ホームページは教育の趣旨や方針、特徴などを詳細かつ的確に掲載していると評価されている。学校案内・募集要項等の紙媒体、オープンキャンパスでの説明により受験・入学までに理解していただけるよう取り組んでいる。また、ホームページ・ブログ欄で教育活動や英検等合格状況の最新情報の掲載に取り組んでいる。ブログ記事の頻度を上げることが課題となっている。

なお、3月末に実施している新入生オリエンテーションとは別に各入試の合格発表後に合格者オリエンテーションや学習交流会を実施しており、入学前までに事前学習ができるよう工夫している。

(10) 財務

	評 価 項 目	評価
財 務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
	財務・決算書類において会計監査は適正に行われているか	4
	財務状況は適正に公開されているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

学費値上げを抑制しつつ少人数授業を維持することは学校経営にとって決して容易でないが、適正に収支バランスを取ることに取り組んでいる。教育環境を改善するための財源を得ることが課題となっている。将来展望をもって成長できるように中期計画に則った単年度計画の実現及び中長期的な財政基盤安定に努めている。なお、財務諸表はホームページ上に公開している。

(11) 法令等の遵守

	評 価 項 目	評価
法令等の 遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
	自己評価結果を公開しているか	4
	学校関係者評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
	学校関係者評価を公開しているか	4

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

学校運営や教育活動は、適正な学内手続きを経て実施しており、法令・規程順守には常に留意しており、チェック機能が有効に働いていると評価できる。個人情報保護にも細心の注意を払っている。また、自己評価・学校関係者評価は学校運営や教育活動を振り返り、改善していく良い機会と考えている。

(12) 社会貢献・地域貢献

	評 価 項 目	評価
社会貢献 地域貢献	英語教育資源を活用した中学校教員への支援	4
	英語教育資源を活用した中学生への支援	4
	地域に対する公開講座	1
	生徒にボランティア活動を奨励、支援しているか	3

【評価 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切】

コメント・課題・改善事項

本校の教育力（外国人教員による英語教育力）を活用して中学校の英語教育力向上に資するように、毎年、英語教員を対象に英語研修プログラム（Brush Up Lesson）を開講している。また、中学生を対象に英語によるコミュニケーション力向上講座を実施している。但し、現在の教職員体制では、地域住民に対して公開講座を開設する余裕がないが、教職員組織が拡充すれば将来的に公開講座開催も検討していきたい。なお、ボランティア活動についても生徒の希望に応じ個別で対応しているが、現状では生徒全員を対象とした取組みについては課題として残っている。

以上

【2016年度学校関係者評価】

学校評価に関する本校規程に従い、2016年9月17日に2015年度の学校運営・教育活動に関する学校関係者評価委員会を実施しました。教職員10名、外部有識者1名及び保護者代表（PTSA役員）7名の計18名が出席し、「2016年度（平成28年度）自己評価」について検討しました。自己評価報告書に対しては概ね妥当であることが確認されました。自由な雰囲気の中で議事が順次進められ貴重な意見が多数出されましたので、学校関係者評価委員会での議論を以下にまとめ公表させていただきます。

関西インターナショナルハイスクール
（関西外語専門学校 国際高等課程）
学校関係者評価委員会委員長
花畑 好一

学校関係者評価委員会 2016年9月17日（土）12:00～14:30 本校214号教室で実施
出席参加した学校関係者評価委員 計18名

教職員 10名（校長、国際高等課程長、各学年担任6名、英語科教員、事務局職員）
外部有識者 1名（関西外国語大学元教授）
保護者代表 7名

委員会において説明・報告・討議があった事項は以下の通りです。なお、学校関係者評価委員会の趣旨及び教育目標、教育方針、2015年度の重点的な取組事項についての説明より議論及び報告が始められたことを補記しておきます。

評価項目の達成及び取り組み状況について話し合われましたが、主な事項は次の通りです。

1. 教育理念・目標など

「生きた英語力養成」「真の国際人育成」の教育目標の背景には、「血の通った教育の場」という学校法人天王寺学館の教育理念が脈々と流れていることが確認された。実際の社会ではコミュニケーション能力が求められており、本校の徹底した少人数制によるアクティブ・ラーニングが生徒のコミュニケーション能力育成に大きく寄与していることが評価された。学習面においても教員が一方向的に教える講義型授業よりも生徒が参加するディスカッション形式の授業で知的好奇心が刺激され理解が深まることが認められた。ディスカッション活性化の背景には生徒の個性を尊重する校風に加えて、多様な文化・価値観を有するさまざまな国籍の教員や帰国生に代表される個性豊かな生徒がいることも評価された。大阪府教育庁の職員による本校授業の視察においても活発なアクティブ・ラーニングが教育庁職員から評価されていたことが報告され

た。このような議論や報告の結果、グローバル化が進展している社会情勢や本校の教育成果から判断して教育目標、教育方針に関する自己評価は概ね適切であることが確認された。

2. 2015年度（平成27年度）の重点的な取組事項

生徒数が大幅に増加した年度となり、教職員数の充実させることで少人数教育を堅持したことが報告された。生徒数が150名近くとなったために全校生徒が互いに顔見知りという状況ではなくなったが、英語の習熟度別クラス編成が学年を超えての交流を促進していることが確認された。

英語で国際問題を議論する模擬国連については、3年生全員参加を維持するために本校主催の「模擬国連大阪（Model United Nations Osaka）」を立ち上げた。私立進学校の高校生も多数参加する中で議長、ブロックリーダーは本校生徒が担当することになり、事実上会議の運営、議事進行は本校生徒が担うことになった。教育課程に従って1年次より実施している英語・国際教育の成果に加えて、約2年間に亘る開催準備と培ってきたノウハウにより大会初年度にもかかわらず、以前から参加している「関西高校模擬国連大会」と円滑に連携でき、また成功させることができた。

全体的な議論では教育理念や目標はぶれることなく教育活動を推し進めつつも、変化や諸課題に対して柔軟に対応する本校の姿勢が評価された。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

- (1) 教育理念・目標など
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 生徒指導・進路指導
- (5) 課外活動等
- (6) 学修成果
- (7) 生徒支援・学費・奨学金
- (8) 教育環境
- (9) 生徒の受入れ募集
- (10) 財務
- (11) 法令等の遵守
- (12) 社会貢献・地域貢献

学校評価委員会の議論進行において時間的な制約から上記各項目についてまとめて議論したが、主に次のような意見や発言があった。

教育活動・教育課程・模擬国連について

生徒が授業の中で社会問題や国際問題を議論できるようになるためには、教科書に記されている基本事項を押さえつつ現実世界で実際に起こっている事象を取り上げていく必要がある。社会科系の科目配置は1年次の地理（Geography）、世界史、日本史に始まり、国際理解（Global Studies）、World History、政治経済、現代社会、国際関係、エリアスタディ、倫理（選択制）と社会科系の諸分野を網羅的・体系的に学ぶことができる。このため、現実社会の諸課題や諸問題を幅広い観点からさまざまな意見が飛び交う教育環境の中で生徒たちが積極的に議論に参加していることが確認された。

社会科で出される課題はエッセイ形式が多く、例えば2年生の夏休みの課題は裁判を傍聴して感想や意見を書くという課題があった。このように体験することを通して自分の意見を積極的に表現することに重点を置いた取り組みがなされていることが報告された。

アクティブ・ラーニングの自己発信型教育のおかげで、国際教育で重要な国語教育においても授業で課した物語創作の課題に対して生徒たちが創造力豊かに自発的に生き生きと課題に向き合う様子が報告された。また、進学した大学でも一般の日本人大学生とは違って積極的に意見を言う本校卒業生の様子が報告された。家庭でも家族でニュースを見ながら時事問題を話し合うことが多いことも話題となった。

また、生徒の個性や特性が尊重される教育についても評価された。5教科7科目を平均的に学ばなければならない高校とは異なり、本校での英語・国際教育により、学力を大きく伸ばし、自分が望む英語の力を身につけることができ、劣等感を克服することができたこと、自信をもって学ぶことができているという報告もあった。個性が認められるので、英語の学習だけでなく生徒自身が自分で目標を立てて実行しているという報告があった。

なお、2015年度については習熟度別クラス編成を実施している英語クラスについて、後期の英語クラスが上位クラスに移った生徒はいなかったが、前期に英語力が大幅に向上した生徒を上位クラスに移行させることが学習意欲向上につながるという意見が出た。この点について、2015年度は該当者がいなかっただけで後期当初の上位クラス移行制度を廃止した訳ではないと言う説明が英語科教員からあった。

参加型のアクティブな学びの中で、中学校時代は「勉強が嫌い」で学習に力を注がなかった生徒が積極的に学ぶようになり、親として喜んでいるという声もあった。アクティブ・ラーニングの一環で授業の中で模擬選挙も実施したが、本校の生徒は3年生ともなると投票に行くのは当たり前という感覚になっていること、2年生も時事問題に興味・関心をもつようになったとの声があった。時事問題や社会事象、そして政治に興味・関心があるので選挙に行くという、社会人としての健全な素養が本校教育の中で育まれていると評価できる。

以上の意見や報告をまとめると、2015年度に本校が「模擬国連大阪」を立ち上げ、議長及びブロックリーダーという会議運営の中心的な役割を担い、模擬国連大会を成

功させることができたのは、実践的英語力に加えて、実社会を生きる上で大切な教養及び議論できる力が培われているからであると結論づけることができる。

進路指導について

進路指導部より進路指導の基本方針は、学力だけで決めるのではなく、何よりもまず何をしたいのかと引き出すことであるという説明があった。教員は進路に関する情報提供、アドバイスをを行い、進路指導計画を立てて指導を進めている。このため、1年次からアプローチしていることが報告された。また、各学年で HR を活用したり、個人面談を実施するという取り組みも報告された。

AO 入試や自己推薦入試などの入試形態においては、学内・学外で自主的に活動することが大切であること、また3年生は全員模擬国連大会に参加するので、模擬国連での経験を活用する生徒が多いことが報告された。この入試形態で受験を希望する生徒については教員たちが一人ひとりの志望理由書などの作成で指導していることが報告された。志望理由書では、「自分が何をしたいのか」を明確にもっていなければ具体的なことは書けないが、本校での学びや体験、また学外での諸経験が役立っており、各教員が個別に支援・指導していることが話題となった。外部有識者からは、教員が生徒一人ひとりに向き合っており、本校の教員のこのような姿勢や教育は高く評価できること、またエッセーをたくさん書かせるという高校生時代に本来充実されるべき教育を本校が実施していることについては指導教員たちの熱意に敬意を表したい、というコメントがあった。

生徒指導について

生徒指導部より、生徒数が増えていることで起きていることとしては、生徒たちの中で規律が以前にも増して重要になっていること、生徒たちが健全に学ぶことができるためにルール作りに苦労しているという報告があった。

保護者からは、風紀面で規則は一般の公立私立高校に比べて厳しくないのでは、生徒が自分たちでラインを探っているように感じており、それで良いという意見があった。風紀面だけでなく、いろいろな面で自分は何をするのか、どこまでするのかなど、生徒に判断が委ねられている環境は素晴らしいと思うという意見もあった。

学修成果について

英語力について、英検で卒業時には9割近い生徒が2級に合格していること、ほぼ2割の生徒が準1級に合格していること、TOEICで7割近い生徒が500点以上、5割が600点以上、3割が700点以上となっていることが報告された。

英語科教員より、英語が話せるのと英語力があるのとは異なるが、一般の高校は読解や文法に偏った教育となっていることが多いが、本校は日本人教員と外国人教員の授業バランスで総合的な英語力が養える教育となっており、相乗効果で期待通りの良い

結果が出ているという説明があった。

また、外部有識者より数字から判断して優れた英語教育を実施していると評価された。同時に大学進学に当たっては、既に本校において高度な英語運用能力を身につけた生徒には、外国語学部等の志願に偏ることなく、他の専門的学問分野を専攻する学部を選択することも奨励されるべきである、というコメントもいただいた。

課外活動について

教員が努力し、生徒会も自主的に活動していることが評価できる。しかし、生徒の満足度が他の項目に比べて低いことが懸念されるというコメントが出された。

生徒支援・学費・奨学金について

学費は4期に分けて請求しており規程に従って実施していることが報告された。奨学金については、在学中に受給できる奨学金、大学進学時の奨学金、海外留学などが対象となるものなどの種類があり、掲示板で案内するとともに、種類によっては PTSA 総会（主に学校と保護者の連絡懇談会で年4回実施している）などを活用して案内しているという説明もあった。なお、申請書類を書くに当たって国語科教員が添削など、できるだけ受給できるような支援を実施していることが報告された。

生徒受入れ・募集について

中学生の進路対象校として、英語・国際教育を希望する生徒に本校の情報が届くように、中学校に学校案内送付、外部の進学相談会参加、ホームページによる情報発信、(訪問している学校は限られているが) 中学校訪問を行っていることが報告された。

一般的な高校以外の進路選択となるために中学校教員より本校への進学を反対されたという報告が保護者からあった。希望している大学に進学を果たすことで自分の進路選択が適切であったことを中学校に伝えたいという声もあった。

行きたい高校がなかなか見つからなかったが本校のオープンキャンパスに参加して、きらきらした子どもの目を見て本校受験を決めたという体験談も披露された。

以上のように、学校評価委員会では各委員より報告や説明、発言、意見交換などが行われ、本校の自己評価については概ね妥当であることが確認された。

以上

No.	質問内容	回答割合 (%)					
		よくあてはまる	ややあてはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	わからない(判断できない)	
1	KIHSを志願した際、日本(社会)のグローバル化を意識した。	1年	56.5%	34.8%	4.3%	4.3%	0.0%
		2年	53.3%	46.7%	0.0%	0.0%	0.0%
		3年	54.5%	36.4%	9.1%	0.0%	0.0%
		計	54.8%	39.3%	4.5%	1.4%	0.0%
2	KIHSを志願した際、「生きた英語」の必要性を意識した。	1年	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%
		2年	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%
		3年	63.6%	27.3%	9.1%	0.0%	0.0%
		計	73.2%	23.8%	3.0%	0.0%	0.0%
3	KIHSの方針や教育活動全般について保護者として賛同している。	1年	60.9%	26.1%	4.3%	0.0%	8.7%
		2年	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		3年	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	57.9%	37.8%	1.4%	0.0%	2.9%
4	KIHSに子どもを入学させてよかったと思う。	1年	65.2%	30.4%	0.0%	0.0%	4.3%
		2年	53.3%	33.3%	13.3%	0.0%	0.0%
		3年	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	63.8%	30.3%	4.4%	0.0%	1.4%
5	KIHSの教職員は生徒の気持ちや思いをよく理解してくれるようだ。	1年	52.2%	30.4%	4.3%	0.0%	13.0%
		2年	46.7%	33.3%	20.0%	0.0%	0.0%
		3年	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	54.2%	33.4%	8.1%	0.0%	4.3%
6	KIHSの教職員は生徒をよく叱咤激励しているようだ。	1年	34.8%	43.5%	4.3%	0.0%	17.4%
		2年	33.3%	46.7%	20.0%	0.0%	0.0%
		3年	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	40.9%	45.2%	8.1%	0.0%	6.8%
7	KIHSで有意義な高校生活を送っているようだ。	1年	21.7%	69.6%	4.3%	4.3%	0.0%
		2年	26.7%	60.0%	13.3%	0.0%	0.0%
		3年	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	40.4%	52.3%	5.9%	1.4%	0.0%
8	授業は楽しいようだ。	1年	30.4%	47.8%	13.0%	4.3%	4.3%
		2年	20.0%	46.7%	26.7%	6.7%	0.0%
		3年	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	32.0%	49.7%	13.2%	3.7%	1.4%
9	有意義な授業が多く、多くのことを学んでいるようだ。	1年	30.4%	52.2%	8.7%	0.0%	8.7%
		2年	33.3%	46.7%	13.3%	6.7%	0.0%
		3年	81.8%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	46.5%	39.0%	7.3%	2.2%	2.9%
10	KIHSに入学してから英語力は向上したようだ。	1年	47.8%	43.5%	4.3%	0.0%	4.3%
		2年	60.0%	33.3%	0.0%	6.7%	0.0%
		3年	81.8%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%
		計	63.2%	28.6%	4.5%	2.2%	1.4%
11	外国人の先生の授業では、英語で発言しているようだ。	1年	21.7%	47.8%	8.7%	8.7%	13.0%
		2年	46.7%	26.7%	20.0%	6.7%	0.0%
		3年	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	44.0%	37.0%	9.6%	5.1%	4.3%
12	授業で分からない点があれば、後で先生に個人的に質問できるようだ。	1年	26.1%	43.5%	21.7%	4.3%	4.3%
		2年	13.3%	46.7%	13.3%	6.7%	20.0%
		3年	45.5%	18.2%	27.3%	0.0%	9.1%
		計	28.3%	36.1%	20.8%	3.7%	11.1%
13	この社会や世界のことに関心を持つようになったようだ。	1年	30.4%	47.8%	17.4%	0.0%	4.3%
		2年	26.7%	53.3%	20.0%	0.0%	0.0%
		3年	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	52.4%	33.7%	12.5%	0.0%	1.4%
14	先生は熱心に授業に取り組み、よく指導してくれているようだ。	1年	39.1%	43.5%	4.3%	0.0%	13.0%
		2年	60.0%	26.7%	6.7%	6.7%	0.0%
		3年	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	57.3%	32.5%	3.7%	2.2%	4.3%
15	先生は、生徒の悩みや思いを受け止め適切なアドバイスしてくれる。	1年	34.8%	34.8%	8.7%	0.0%	21.7%
		2年	26.7%	46.7%	6.7%	13.3%	6.7%
		3年	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	38.7%	42.3%	5.1%	4.4%	9.5%
16	保護者として、担任をはじめとして教職員に相談しやすい。	1年	52.2%	34.8%	13.0%	0.0%	0.0%
		2年	33.3%	33.3%	20.0%	6.7%	6.7%
		3年	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	43.7%	40.9%	11.0%	2.2%	2.2%

17	担任は、生徒の個性や資質を踏まえて、適切な指導をしている。		よくあてはまる	ややあてはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	わからない(判断できない)
		1年	47.8%	26.1%	8.7%	0.0%	17.4%
		2年	40.0%	33.3%	6.7%	20.0%	0.0%
		3年	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	50.5%	31.9%	5.1%	6.7%	5.8%
18	以前と比べると、子どもの学習意欲が上がり学力が向上している。		よくあてはまる	ややあてはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	わからない(判断できない)
		1年	26.1%	43.5%	21.7%	4.3%	4.3%
		2年	33.3%	46.7%	6.7%	13.3%	0.0%
		3年	45.5%	27.3%	18.2%	0.0%	9.1%
		計	35.0%	39.1%	15.5%	5.9%	4.5%
19	子どもの素質や希望を受け止め、適切な進路指導がなされている。		よくあてはまる	ややあてはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	わからない(判断できない)
		1年	17.4%	39.1%	13.0%	0.0%	30.4%
		2年	40.0%	33.3%	20.0%	6.7%	0.0%
		3年	63.6%	27.3%	9.1%	0.0%	0.0%
		計	40.3%	33.2%	14.0%	2.2%	10.1%
20	卒業生の進路状況や進路実績を評価している。		よくあてはまる	ややあてはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	わからない(判断できない)
		1年	30.4%	34.8%	13.0%	0.0%	21.7%
		2年	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%
		3年	54.5%	36.4%	0.0%	9.1%	0.0%
		計	41.7%	37.0%	11.0%	3.0%	7.2%
21	学校行事・課外活動は充実していると思う。		よくあてはまる	ややあてはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	わからない(判断できない)
		1年	22.7%	36.4%	18.2%	9.1%	13.6%
		2年	13.3%	60.0%	13.3%	13.3%	0.0%
		3年	27.3%	54.5%	9.1%	0.0%	9.1%
		計	21.1%	50.3%	13.5%	7.5%	7.6%
22	学校行事・課外活動を通してさまざまな経験をしているようだ。		よくあてはまる	ややあてはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	わからない(判断できない)
		1年	27.3%	22.7%	31.8%	4.5%	13.6%
		2年	26.7%	46.7%	20.0%	6.7%	0.0%
		3年	36.4%	45.5%	18.2%	0.0%	0.0%
		計	30.1%	38.3%	23.3%	3.7%	4.5%
23	子どもは学校へ行くのが楽しいようだ。		よくあてはまる	ややあてはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	わからない(判断できない)
		1年	34.8%	52.2%	13.0%	0.0%	0.0%
		2年	20.0%	46.7%	33.3%	0.0%	0.0%
		3年	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	38.3%	46.3%	15.5%	0.0%	0.0%
24	KIHISでは、良い交友関係が築かれているようだ。		よくあてはまる	ややあてはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	わからない(判断できない)
		1年	34.8%	39.1%	21.7%	0.0%	4.3%
		2年	33.3%	46.7%	20.0%	0.0%	0.0%
		3年	81.8%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%
		計	50.0%	34.7%	13.9%	0.0%	1.4%
25	個人情報やプライバシーが守られ、人権が尊重されている。		よくあてはまる	ややあてはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	わからない(判断できない)
		1年	54.5%	40.9%	0.0%	0.0%	4.5%
		2年	26.7%	60.0%	6.7%	0.0%	6.7%
		3年	54.5%	27.3%	0.0%	0.0%	18.2%
		計	45.3%	42.7%	2.2%	0.0%	9.8%
26	教職員から家庭への事務連絡はきめ細かく行われている。		よくあてはまる	ややあてはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	わからない(判断できない)
		1年	47.8%	47.8%	4.3%	0.0%	0.0%
		2年	40.0%	46.7%	13.3%	0.0%	0.0%
		3年	54.5%	36.4%	9.1%	0.0%	0.0%
		計	47.5%	43.6%	8.9%	0.0%	0.0%
27	学費・奨学金など、事務局の職員は、適切に対応している。		よくあてはまる	ややあてはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	わからない(判断できない)
		1年	82.6%	8.7%	4.3%	0.0%	4.3%
		2年	66.7%	26.7%	6.7%	0.0%	0.0%
		3年	72.7%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%
		計	74.0%	17.8%	3.7%	0.0%	4.5%